

伊関友伸教授講演会 アンケート回答(2024/4/12 時点)

[質問1]

うわまち病院跡地への大学誘致の件で、理学療法などの学部の設置についてはどう考えているのか。個人的には看護師のみではなく、他のコメディカル(医療従事者)の養成もできたほうがよいかと考えています。

[回答1]

うわまち病院跡地に設置される大学は学年ごとに看護学科80人程度、リハビリテーション学科40人程度の定員を予定しています。将来的には保健師・助産師養成コースの設置を検討するようです。リハビリテーション学科では、まずは理学療法士を育成する予定ですが、将来的には作業療法士の養成コースの設置も視野に入れているとのこと。また開学後には大学院の設置も検討する予定とされています。

[質問2]

オール個室の病院にした場合、同環境でお金を払う人と払わない人へのサービスは同一ですか、苦情にはならないもののでしょうか。又、働く側の意識として学ばなければならない事はありますでしょうか？

[回答2]

今回の講演会で示されていた「オール個室」では、個室料金をとることを想定していません。そのため、差額ベッド料金を支払う、あるいは支払わないことによるサービスの差は生まれません。

[質問3]

①メディカルツーリズムの現状 ②メディカルパークの現状

[回答3]

本市ではメディカルツーリズム、メディカルパークは実施されていません。神奈川県では過去に県保健医療計画推進会議の中で「医療ツーリズムと地域医療との調和に関する検討会」が開催されたことがあります。本会議の結論として、県内の医療資源の不足や地域の医療人材への影響、また外国人患者の容態急変時における地域の救急医療体制への影響等が課題であるため、神奈川県知事、川崎市市長の連名で、「医療ツーリズムと地域医療との調和に向けた国のルールを整備することを求める要望」が厚生労働大臣あてに提出されました。

[質問4]

- ・医療保険 75 才から 2 割→1 割負担になったら病院は黒字？
- ・マイナンバーカードと医療とのヒモ付は今後進むのか？
- ・看護師不足では看護師の OB の雇用をしたらどうか？

[回答4]

- ・紙の健康保険証は令和 6 年秋頃を目処に廃止が予定されています。マイナンバーカードと健康保険証を一体化し、従来の紙の保険証ではなく、マイナンバーカード1枚で受診をすることで、診療記録などをその場で確認することが可能となり、データに基づいた医療が今後進んでいくと想定されます。
- ・現在 60 歳以上の看護職の就業者数は年々増加しており、現役看護職員の 9 人に1人がプラチナナースと呼ばれる定年退職前後の就業をしています。

[質問5]

「横須賀市内の精神保健の今後について市としてはどのように見通しているのか？」を考えていただくと幸いです。横三地区は、湘南病院、久里浜医療センター、福井記念病院が入院病棟を有しておりますが、「入院患者は病院の固定資産」と考えているような体質が残っていると感じます。精神疾患の入院日数は長い現状をどのように在宅化していくかなどの議論が必要と思っています。

[回答5]

横須賀市では平成9年によこすか障害者福祉計画を策定し、その後6年ごとに計画の策定を重ねながら、総合的・計画的に施策を推進してきました。この計画の対象となる障害者とは、障害者手帳の有無にかかわらず、身体障害、知的障害、精神障害、難病および発達障害等によって、日常生活および社会生活において何らかの制限を受ける方や、不自由な状態にある方を指します。

また、保健、医療および福祉関係者等からなる精神保健福祉連絡協議会を開催しています。こちらの協議会は継続的に開催していく予定です。今後も精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう、これらの取り組みを推進していきます。

参考 URL)よこすか障害者計画

https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2625/documents/2021_yokosukaplan.pdf